

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「自ら気づく人を育てる」を目標に掲げ、「茨西 PRIDE」のもと生徒の志をカタチにするため、家庭と地域を巻き込んだ教育活動を展開することで茨西ブランドを確立する。

1. 確かな学力を基礎に、志高い進路目標を実現する生徒を育成し、中堅大学に進学実績を持つ学校をめざす。
2. 英語教育推進事業をもとに、引き続き指導法を研究して生徒の英語によるコミュニケーション能力を育成し国際社会に通用する人材を育てる。
3. 生徒会活動・部活動等の充実を図り、規律規範意識を高め、健康で心豊かな人間を育成する。
4. 学校と家庭・地域をつなぐ活動を通して、生徒自身の誇りと母校愛を醸成するとともに、社会を創っていく態度を涵養する。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 生徒の確かな学力の育成と向上のために、興味・関心を引き出せるように授業の改善・充実に努める。

ア 生徒による授業評価と保護者や中学生による授業公開のアンケート結果を効果的に活用するとともに、教員相互の授業見学を組織的に取り組み、特にICTを活用した授業公開を定期的実施し、機器をいかに使いこなし教育効果をあげるかについて研究協議を行い授業力の向上に努める。

※生徒向け学校教育自己診断の授業でのコンピュータ等の活用(平成25年度69.6%、平成26年度54.7%)を、平成29年度には75%以上にする。

※生徒向け学校教育自己診断の他の先生が授業を見学に来る(平成25年度63.2%、平成26年度62.3%)を、平成29年度には70%以上にする。

(2) 英語教育推進事業をもとに、英語によるコミュニケーション能力を育成する。

※海外修学旅行を継続して行う事で、英語によるコミュニケーション能力の必要性を体感させ、英検等の資格取得の更なる推奨に努める。

※本校単独によるオーストラリア語学研修(平成26年度11名参加)の内容を精査し、生徒に国際的な視野を育むよう努める。

2 志高い進路目標を実現する生徒の育成

(1) 自分の将来を具体的に設計し、その実現に積極的に取り組むという将来のキャリア形成を自ら考えさせ選択させる能力を育成する。

ア 進路フィールドワークや高大連携によるキャリアサポートの更なる充実を図る。

※教育産業の講習、勉強合宿、キャリア教育連携授業、進学講習会等の年間参加者数(平成25年度300名、平成26年度968名)を、平成29年度には500名以上をめざす。

※進路実現率(進路実績/3年4月時点の進路希望)(平成24年度89.3%、平成25年度87.9%、平成26年度89.9%)を、平成29年度には90%以上にする。

3 安全安心で魅力ある学校づくり

(1) 基本的生活習慣の確立と定着を図ると共に生徒の規範意識を醸成する。

ア 挨拶ができる、遅刻をしない、通学マナーの向上など基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成を継続して行う。

※生徒向け学校教育自己診断の生徒指導に関するより強い肯定率(平成25年度11.0%、平成26年度11.2%)を、平成28年度には15%以上にする。

(2) 生徒会活動・ホームルーム活動・部活動・学校行事等の充実を図り、自己有用感の醸成やコミュニケーション能力の育成を図る。

※生徒向け学校教育自己診断の「茨木西高校に進学して良かった」の肯定率(平成26年度生徒80.7%)を、平成28年度には85%以上にする。

(3) 自然災害等を想定した実践的な避難訓練を行うとともに、高校生が支援者となる観点を踏まえ、授業や地域連携の中で「共助」に関する意識を涵養する。

4 学校・家庭・地域の連携強化

(1) 「中高連携」、「小高連携」の取組を進めるとともに「地域交流協議会」との連携を継続して行う。

ア 幼保小中等への生徒による出前授業の実施や地域行事等への参加協力者数や回数を増加させる。

イ 卒業生・保護者・地域の人材をボランティアとして、教育活動や部活動に活用できるような教育コミュニティをつくる。

(2) 学校と地域をつなぐ望ましいPTA活動を展開する。

ア 公開授業や体育祭・文化祭等の学校行事への参加を積極的に支援し、学校・家庭・地域の交流を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校協議会からの意見
<p>学校教育自己診断の質問項目の見直しを続けて3年目となり、本年度は必須項目のみとしたことにより、保護者・教員の回収率が昨年を上回った。ただし、項目によっては具体的な取り組みを判定できない等の課題を残す。</p> <p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は、特にICTを活用した授業展開に取り組んだ結果、情報機器の活用に対する自己診断が5%以上upした。特に3年生では、47%から81%と飛躍的に伸びた。これは、40周年記念事業で全教室にプロジェクターを設置し「分かりやすい授業」へ積極的に取り組んだ教員の割合が3年担当者に多かったからであると思われる。 「他の先生が授業を見学に来る」の割合が低下した原因は明確ではないが、ICTを活用した授業、授業力のある教員や若手教員の授業など見学する授業が偏ったことが一因であると考えられる。 授業内容への興味関心に対しては、目標達成できなかったが毎年授業アンケートが実施される事が生徒に浸透し、科目の得手不得手が定着したのではないかと考えられる。ただし、知識・技能の習得に関しては3.06(H26年度3.07)とほとんど変化はなく、教員の授業改善ができていていると考える。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導方針に共感できるについては、2年(57%から51%)、3年(64%から58%)ともに6%低下した。特に2年生は、入室カードを導入した遅刻指導が影響したのではないかと考えられる。結果、遅刻者数は半減したので継続した指導が大事であるとともに遅刻をしない意識を涵養する。 進路や生き方について考える機会があるについては、3年次で69%から55%に低下した。年々多様化する大学入試や進路選択に際しての保護者との意見の違いな 	<p>第一回 平成27年5月27日(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業見学を終えての意見交換 ・実技科目の見学は初めてであったが、生徒の表情が生き生きしてよかった。 ・音楽でしっかりと声を出して歌っていたので感心した。 <p>・平成27年度学校経営計画の取組状況</p> <p>▽40周年事業として、全教室にプロジェクターを設置しICTの更なる活用に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業について、茨木市内の小中学校の教室には、プロジェクターが全教室に配備されている。そのような教育環境で学んだ生徒が、高校でも同じ環境で授業を受けられることは良い事である。 ・中学校での授業を見学に来てください。 ・学力をつけることは勿論大切であるが、動機づけやチャレンジを進めることも大切なことと考える。⇔「やってみる！触れてみる！」 ・大学との連携等、「やってみる！触れてみる！」の取組みがされている。保護者の参加も期待しています。 <p>▽グラム修学旅行を経験した三年生が、英検準二級にチャレンジしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英検に対する保護者からの支援を充実したい。 <p>▽キャリア形成を自ら考えさせ選択させる能力の育成の継続</p> <p>進学講習会、フィールドワーク、高大連携授業など各学年主任と進路部長より説明があった。</p> <p>▽入室カードによる遅刻指導の変更を生活指導部長より説明した。</p> <p>▽中高連携の強化に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区が撤廃された中、地元を大事にする茨木西の取り組みは、非常にありがた

<p>ど、子どもたちの抱える問題はより複雑になっている。教員の自己診断結果でも、進路選択に対してきめ細かい指導を行っているが95%から86%に低下している。キャリア教育に対する取り組みや研修の更なる充実を図るとともに、保護者とともに子どもの進路を考える機会をより多く提供できるようにする。</p> <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。(58%から86%) 評価を行い、次年度の計画に生かしている。(72%から85%)と教職員の自己評価は高い。しかしながら、生徒指導や進路指導等の生徒の自己診断結果から判断すると必ずしも、教職員の取り組みが生徒の育成に反映しているとは言えない。単年度で、判断できるものではないがアンケート結果に振り回されることなく常に研修と研鑽を続け同僚性を高めていく職場環境の醸成に努めたい。 ・生徒指導では、入室カードによる遅刻指導の徹底による遅刻をしない意識を涵養に努める。 ・進路指導では、高大連携キャリア教育授業の継続と保護者連携の強化に努める。 ・授業力については、若手教員とベテラン教員相互の授業見学(バディ・システム)の定着と茨西メンターチームや茨西スタンダードを継承する。 	<p>い。今後とも、連携強化に努めたい。</p> <p>第二回 平成27年10月14日(水)</p> <p>① 平成27年度「学校経営計画」の進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回授業アンケートの結果を踏まえ、授業改善・ICTの活用に漸次取り組む ▽ICTを活用した授業については、茨木市内の中学校の教室には、プロジェクターが全教室に配備され、小学校では電子黒板も導入されている。高校でも同じ環境で授業を受けられることは良い事である。協議会後、教室視察。 ▽授業アンケートの結果、生徒も学校の教育環境にほぼ満足している様子がうかがえる。今後も授業の幅やICTのさらなる活用によって、生徒の興味・関心を引く授業に期待している。 ▽遅刻数の大幅な減少は取り組みを評価したいし、もっとアピールしてもいい。 ・修学旅行での英語コミュニケーションの実践に取り組む。 ・現時点での指定校推薦入試・公募制推薦入試の状況について進路部長より説明があった。 ▽高校3年生で成長する生徒が進路を見据えてくる。これは、中学でも同じことで、中学3年になっての成長が進路決定に重要である。 ▽高校では、入試の幅が大きく、早く進路が決まる生徒とそうでない生徒が混在するクラスの雰囲気について質問があり、3年学年主任より、ナーバスになってくる生徒と進路決定した明るい生徒の温度差の問題があり、心のケアの必要性が話された。 ・各学年主任より、人権学習の取り組みの説明があった。 ・学校教育自己診断のアンケート項目のさらなる精査をおこなう。 ・2学期末の保護者宛郵送物(生活指導関係・出欠状況)のなかに、アンケート用紙を同封し、保護者へ必ず届くよう改善する。 <p>第三回 平成28年2月3日(水)実施予定</p> <p>①平成27年度「学校教育自己診断」集計結果について</p> <p>a. 生徒版の分析結果から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業での情報機器の活用や修学旅行への工夫の項目で高い肯定結果が出ていることを評価 ・悩みを相談できる先生がいるかという数字が3年で大きく向上していることは先生方の取り組みの結果と評価 ・他の先生が授業を見に来るかの数字が上がっていない→昨年より確実に授業見学は増えているはずだが…分析できていない ・同じクラス、同じ生徒でも、先生によって生徒の表情が全く違うところを若い先生は見るべき <p>b. 保護者版の分析結果から</p> <ul style="list-style-type: none"> 回収率が昨年度の30%から60%へと倍増→回答用紙を自宅へ郵送した効果ではないか? ・各学年とも76%の保護者が、子どもが楽しく学校に行っていると見ていることは評価できる ・PTA役員を通して口コミ人伝いで、保護者の意見を学校に届けるチャンスと宣伝した 回収率が上がって良かった ・学校は生徒の教育に対して、概ね保護者からの信頼は得ていると判断できる <p>c. 教職員版の分析結果から(回収率倍増)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年の耐震工事やベテラン教員の転退職による若手教員の増加などの変化の状況を読み、アンケートの数字・数値を分析する必要あり ・数年前と比べ教職員の雰囲気は良い方に変わっている <p>① 平成27年度「学校経営計画及び学校評価」達成状況(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、164名の大学合格者数が報告されているが志望実態はどうかという質問に対し、進路部長より、昨年度に比べ一般入試の受験者数増加している状況と教務部長から、理系生徒に最後まで補習で頑張らせている教員もいることの報告があった。 ・体育館の放送設備の改善 ・プールの補修工事の状況説明と改善の努力への評価と継続を要望される <p>② 平成28年度「学校経営計画及び学校評価(案)」について 特に質問などなし</p> <p>③ 学年の1年間について、</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生は香港交流会、2年生はグアム修学旅行、3年生は全員の卒業・進路実現などを中心に学年主任から報告があった。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
-------	----------	-------------	------	------

府立茨木西高等学校

1 確かな学力の育成	<p>(1) 生徒の確かな学力の育成と向上のために、興味・関心を引き出せるように授業の改善・充実に努める。</p> <p>(2) 英語教育推進事業を基に、英語によるコミュニケーション能力を育成する。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己申告票の授業力の目標設定で、強化したい項目を明記させる。 授業アンケートで特段に高い結果が出た授業者の授業を積極的に公開し、授業力向上に取り組む。 教員相互の授業見学を年間1回以上実施し、「茨西スタンダード」が確立されているか、面談等で確認しながら改善策を共有する。 ICTを活用した授業(プロジェクター、ビデオ、プレゼンテーションソフト等)の実施計画を職員会議等で周知し授業見学後、情報交換の機会を設ける。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業やHRで、海外修学旅行先の情報(英文)収集に取り組む。 ネイティブ講師の更なる活用に取り組む。 地元国際親善都市協会との交流強化 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートで、授業内容に興味関心をもつことができた項目の学校平均 3.10以上(平成26年度 3.07) 生徒向け学校教育自己診断の「他の先生が授業を見学に来る」を65%以上(平成26年度 63.2%) 生徒向け学校教育自己診断の授業でのコンピュータ等の活用を75%以上(平成26年度 69.6%) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 英検準2級以上相当の英語力を有する3年生40名以上(平成26年度 30名) 修学旅行満足度90%以上(平成26年度 86.2%) 年間活用総時数4,000時間以上[4日勤務](平成25年度実績4,900時間[5日勤務]) 	<p>(1)・授業アンケート結果 3.04(1回目 3.04, 2回目 3.03)(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「他の先生が授業を見学に来る」34.6%(△) コンピュータ等の活用を76%(◎) <p>(2)ア・英検準2級以上相当の英語力を有する3年生52名(全体58名)で目標達成。次年度は60名をめざす。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標達成は難しい。配置日数と講座数の影響があるので、次年度より別の指標をたてる。(△)
2 志高い進路目標を実現	<p>(1) 自分の将来を具体的に設計し、その実現に積極的に取り組むという将来のキャリア形成を自ら考えさせ選択させる能力を育成する。</p>	<p>ア・生徒の進路意識を向上させるため1、2年でフィールドワーク、分野別進路説明会、進路ガイダンス等の取組を継続して行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間でキャリア教育について学ぶ授業を公開し、職員のカウンセリング能力の向上を図る。 <p>イ 大学でのキャリア教育プログラムへ参加させる。</p> <p>ウ 教育産業の講習、勉強合宿、校内での進学講習等の取組を継続して行う。</p> <p>エ 学年ごとの成績、進路希望等のデータ蓄積を更に進め、学力実態調査結果をもとに進路実現に取り組む。</p>	<p>ア 生徒向け学校教育自己診断の進路指導に関する項目の肯定率 70%以上(平成26年度 68.8%)</p> <p>イ 延べ参加生徒300名以上(平成26年度 604名[1,2年夏期授業で実施])</p> <p>ウ 延べ参加生徒370名以上(平成26年度 968名)</p> <p>エ 進路実現率(進路実績/3年4月時点の進路希望)90%以上を維持(平成26年度 90%)</p>	<p>ア 自己診断64%で目標達成できず。学年によりバラつきがあり指標を見直したい。(△)</p> <p>イ 318名参加で目標達成。1年生継続実施(◎)</p> <p>ウ 693名参加で目標達成。継続実施(◎)</p> <p>エ 進路実現率70.8%は、第1希望の進路実現に向けて努力している結果である。(△)</p>
3 安全安心で魅力ある学校づくり	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立と定着を図ると共に生徒の規範意識を醸成する。</p> <p>(2) 生徒会活動・ホームルーム活動・部活動・学校行事等の充実を図り、自己有用感の醸成やコミュニケーション能力の育成を図る。</p> <p>(3) 自然災害等を想定した実践的な避難訓練を行う。</p>	<p>(1)</p> <p>基本的な生活習慣の確立と規範意識の更なる醸成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> あいさつ運動を継続して行う。 入室カードによる遅刻指導を実施し、遅刻をしない意識を涵養する。また、卒業式で皆勤賞を授与する。 服装指導に重点を置き、全教職員による統一した指導に取り組む。 <p>(2)</p> <p>ア 「茨西 PRIDE バッジ」の授与による、生徒表彰を継続して行う。</p> <p>イ 人権ホームルーム等を通して、個々の生徒が自尊感情を高めるとともに、他者を思いやる気持ちを育む。</p> <p>ウ 生徒支援カードを活用し、特性のある生徒の支援を行う。</p> <p>(3)</p> <p>本校が広域避難所に指定されている事を周知させ、「共助」に関する意識を涵養する。</p>	<p>(1)</p> <p>生徒向け学校教育自己診断の生徒指導に関する項目のより強い肯定率 15%以上(平成26年度 11%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻に対する意識調査を実施し、授業を大切にすることを涵養する。 PTA 実行委員会、学校協議会、地域交流協議会等での肯定的意見 <p>(2)</p> <p>ア 5名程度をめどに授与</p> <p>イ 人権学習に対する肯定率 85%以上を維持(平成26年度 87%)</p> <p>(3)</p> <p>880万人訓練日に、地域と連携した避難訓練に取り組む。</p>	<p>(1)</p> <p>自己診断 7.3%で目標達成できず。肯定率は57%で変わらず。遅刻指導の影響が考えられる。次年度別指標を考える。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻が減った65%、その理由が、遅刻をしない意識74%であった。(◎) 遅刻者数3,091名(H26、6,661名)(◎) <p>(2)</p> <p>ア 9名(◎)</p> <p>イ 肯定率87%(◎)</p> <p>(3)</p> <p>雨天のため避難行動はとらず、放送による指示と防災HRを実施(○)</p>
4 学校・家庭・地域の連携強化	<p>(1) 「中高連携」、「小高連携」の取組を進めるとともに「地域交流協議会」との連携を継続して行う。</p> <p>(2) 学校と地域をつなぐ望ましいPTA活動を展開する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 茨木市地元中学校連絡会による「中高連携」を強化する。</p> <p>イ 学校生活の実情を踏まえた地域連携について「地域交流協議会」を中心に検討していく。</p> <p>(2)</p> <p>ア・メルマガ、学校ホームページ、地域の広報誌などを活用し学校教育活動の情報発信を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「IBANISHI NEWS」を自治会等の広報を通じて配布する。 <p>イ・PTA各委員会の取組を紹介するとともに、保護者参加型の自転車安全教室や大学見学ツアーなどを企画する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・中高連絡会での肯定的意見</p> <p>イ・参加生徒及び地域交流協議会での肯定的意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 連携事業数15以上(平成26年度13回) <p>(2)</p> <p>ア・保護者向け学校教育自己診断の教育活動の情報発信に関する項目の肯定率 88.0%維持(平成26年度 88.4%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「IBANISHI NEWS」10号以上(平成27年度10号) <p>イ・延べ参加保護者数30名以上</p>	<p>(1)</p> <p>ア・オープンスクール参加生徒数の報告は好評であった。(◎)</p> <p>イ・連携事業数14回(△)</p> <p>(2)</p> <p>ア・自己診断87.7%で目標達成。2年生保護者の数値が67%から94%に大幅upした。修学旅行のリアルタイム情報発信が好評であった。(◎)</p> <p>イ・延べ参加保護者数100名以上で目標達成。各委員会活動以外に40周年行事やものづくり体験教室などの実施による。次年度も引き続き参加しやすい企画を検討する。(◎)</p>